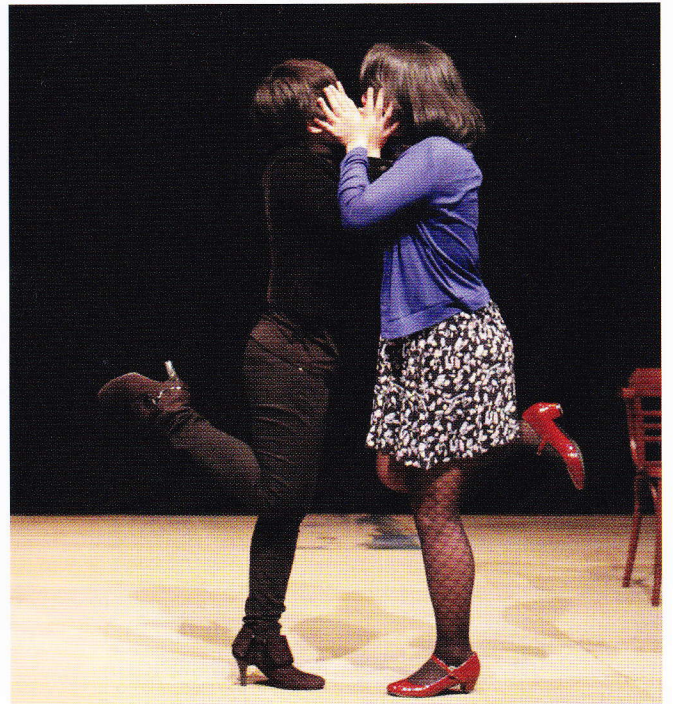




女B 荻原京子 女A 鶴岡はるか



シングルマザーの美春 西木愛

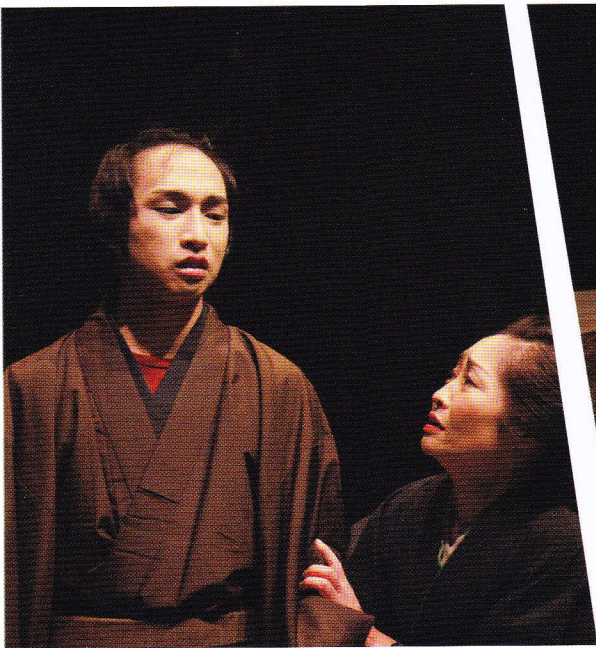


ロゼッタの大将 望月タダシ



大学教授の磯崎先生 小松正彦





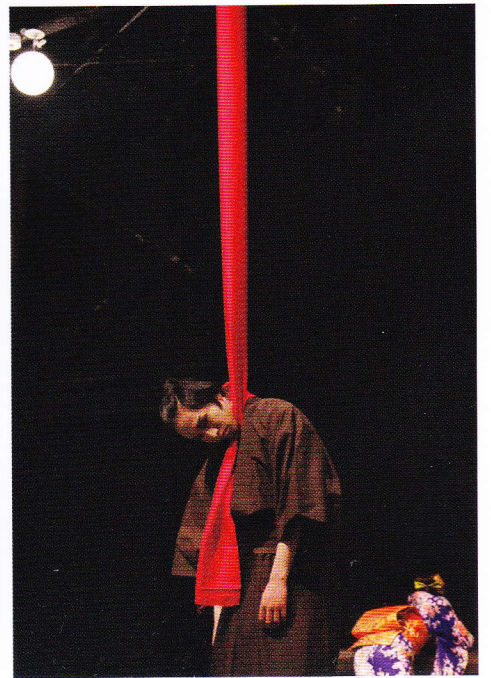
治兵衛 山本将広



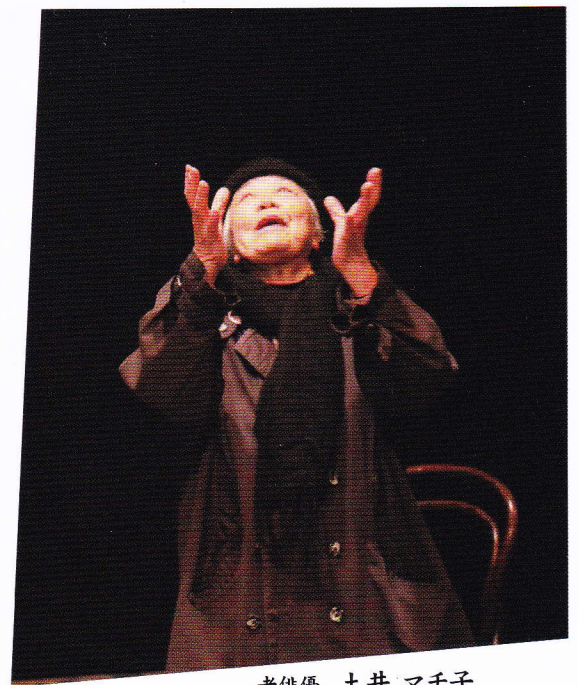
小春 横山百江



舞台美術 笹本 正明







老俳優 土井 マチ子



薩摩琵琶のあやめ 清水 えみ子



ベートーヴェン「英雄」葬送行進曲録音  
大竹 あかね



舞台大道具 蘭 光



## 「藤谷ワールドで桜座の空間を埋め尽くせ！」



私が山梨で演劇と出会ったのは58才の4年前にクラニー文化ホールでの県民参加劇「わが町」に参加したのがきっかけでした。それから役者として演じる面白さに魅了されました。しかし勤めていた会社を辞め、デイサービスを立ち上げ軌道に乗るまでの1年ほど演劇からはなれていましたが、ある日藤谷さんからハロー山梨の芝居に出演依頼があり「カラスの群れと駱駝たち」で初めて藤谷ワールドに参加いたしました。その後は今年6月の「翔べない二人」にも参加させていただきました。今回の「お賽銭で・・・今夜は焼き肉ねっ！」で3作目になります。藤谷ワールドは触れてみて、独特の世界観がありました。シュールさとリアリズムが混ざり合い、どこか懐かしさを覚える世界です。東京での学生時代に見た赤テントや黒テント、早稲田小劇場の芝居の雰囲気を持ちながら文学座のような新劇の匂いも漂い、また藤谷さんの演劇に対する情熱が垣間見えます。そのバイタリティには後輩として感服しています。

今回も舞台で思いっきり弾きたいと思っています。アントナン・アルトーは演劇は情動の氾濫だと言っていますが、藤谷ワールドはそれを体現させてくれる舞台だと思っています。見えない世界と見える世界を行きつ戻りつする藤谷ワールドで桜座の空間を埋め尽くせ！

シニア劇団 南アルプス桃源座 代表 小松 正彦

## 「深海の色は、どんな色？」

ハロー山梨演劇公演第5回「揺籃」から7年に渡り、藤谷清六さんのお芝居に関する宣伝デザインを担当させていただいております。

「このお芝居のチラシは、深海の色ですよ」

こんな調子でデザインのイメージをお伝えになる清六さんは、こんな風にもおっしゃいます。

「ぜんぜん、こんな色では、ありませんよ。もっと深い・・・太陽の光が届くか届かないか分からないくらいの・・・そういう色です」

さて今回、お芝居イメージにと渡されたのは、近松門左衛門の「心中天網島」のDVDでした。人形浄瑠璃の作品ではなく、篠田正浩監督、岩下志麻主演の40年以上前の映画です。現実と虚構を対比しながら見せるこの映画の前衛的演出を、どうやら今回のお芝居に持ち込まれるようなのです。

さあ、これから格調高い文楽とリアルな庶民を渾然一体に描く冒険と実験に満ちた藤谷ワールド炸裂、薩摩琵琶やヴァイオリン演奏もありの、お芝居のはじまり、はじまり～。私も観客の一人として、深海の不思議な世界を旅するような気持ちで、このお芝居を楽しもうと思っています。

Two Bits Web Design Studio 山中みゆき



## 「A New Wind」

桜座の舞台に新しい風が・・・吹いています。

爽やかなその風とは、ハロー山梨の公演に初めて参加する「荻野・荻原・佐藤・高畑・鶴岡・樋貝・ひゆか」7名の役者さんのことです。私にとっては全員ニューフェイス。「説明を極力省き、直感と反射神経で演ずる」という藤谷組のお芝居に多少戸惑い気味でしたが、皆さんと新鮮な感覚で稽古をして参りました。

スタッフにも新しい風が吹きました。舞台美術を日本画の笹本正明画伯にお受けして頂いたこと、これは強烈なNew Windでした。蘭光さんに大道具の製作をして頂きました。演出助手には塚田仁さんに加わって頂き、さらに音響を若い丹沢昌貴・加賀美瞬の両君に初めてお願いしました。

サッカーやラグビーのように、チームワークと絶妙なパスワークを駆使しながら調和のとれたアンサンブルを構築すること、まさに演劇が総合芸術と言われる所以だと感じました。

今後もハロー山梨のメンバーは心身ともに修練をつんで、より良い舞台を創って行きたいと思います。

最後に、本日このプログラムに素晴らしい文章をお寄せ頂きました先生方に、心より御礼申し上げます。そしてご多用中にも関わらず桜座にお越し頂きましたお客様、誠にありがとうございました。どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

作・演出 藤谷 清六

## ハロー山梨演劇塾「YaYaYa」作品録

1. 極楽岩恋歌 (映画) / 2004年文学館
2. 眠れない赤鬼 (映画) / 2005年文学館
3. 愛妻物語 / 2006年9月文学館
4. 平成龍宮事情 / 2006年10月文学館
5. 揺籃 / 2007年6月桜座
6. 翔べない二人 / 2007年12月文学館
7. 基板 / 2008年10月桜座
8. へらずの酒 / 2009年8月桜座
9. 難破船の仔羊たち / 2010年8月文化ホール
10. ビバリーヒルズの紋白蝶 / 2011年10月県立文学館
11. 世にも不思議な二つの物語 / 2012年8月双葉ふれあい文化館  
(Aグループ/天才たちの午後・Bグループ/カラスの群れと駱駝たち)
12. オウバアキル / 2013年8月桜座
13. 翔べない二人(再演) / 2014年6月桜座

